

1学期も今週残すところ3間となりました。今年度から通信票(評価)を2期制とし、1学期末には通知票は渡しません。9月末と3月末の2回だけとなります。何か物足りないかもしれませんが、その分、お子さんと学校のことをお話してください。



家庭と学校ががっちり手を繋ぐ2年目に

保護者の皆様との情報共有 その2

○ 熱中症予防と対応について

熱中症予防と対応については、学校だより第46号でもお知らせしたところですが、改めて本校の熱中症予防対応の基本方針を2・3ページに掲載しますので、ご確認下さい。

○ 早退等の基準について

熱中症に限らず、体調が悪くて保健室に来室した場合は以下のような対応を取っています。

1 問診

現在の状況、朝の状況、昨日の状況や就寝・起床時刻や食事・便通の状況等

2 検温

必ず、検温をします。検温結果が37度以上であれば、速やかに早退の対応となります。

3 休養・経過観察

軽症で検温結果が平熱の範囲内で教室等での学習には耐えられない場合は、保健室のベッドで休養します。休養は1時間(50分間)までです。

4 教室復帰または早退

1時間の休憩後、改善すれば教室へ、改善が見られない場合は「早退」となります。

※ 具合が悪い子や熱中症等への対応のため、保健室の冷蔵庫には、保冷剤や経口補水液を常備しています。

※ 保健室にお子さんが来室した際には、養護教諭が主として対応しますが、必ず担任や校長・教頭、また職員室にいた職員が複数で対応するようにしています。擦り傷・切り傷、小さなトゲ程度であれば保健室で処置しますが、首から上(目・歯・頭等)の場合には、大事を取り、保護者へ連絡し、速やかな医療機関への受診をお願いしています。

● 救急搬送が必要な場合の対応について

骨折などの大ケガや既往症による意識障害・発作、多量出血や頭を強打した等の重傷事故と判断できる場合には、学校から直接、救急搬送を依頼します。

まずはお子さんの命を最優先に、その後、保護者へ連絡をとり、搬送先の病院に保護者においていただくこととしています。

救急車には、基本的には養護教諭が乗り込んで付き添います。その場合は、搬送先の病院で、養護教諭と保護者間での情報共有をお願いします。

各ご家庭へのお願い

- 熱中症予防のため、マスクをはずして生活させましょう！ そしてもう一つ
- 半袖・半ズボンで快適に生活させましょう！

朝から蒸し暑かったり、カンカン照りの日でも、マスク・長袖姿で登校してくるのは、だいたいは決まった児童ばかりです。学校では顔を見る度に声をかけていますが、返事はほぼ「大丈夫です」、素顔と半袖を拒否します。本校に限らず、各校の登校状況をみると、小学校高学年～中学生の女子にマスク着用は多い傾向が見られます。高校生になるとさすがに成長するようで、概ねはずしています。思春期の特徴なのかもしれませんが、「健康を害してまで…」と思うところもあります。「熱中症に…」と言ってもいうことを聞きません。地域も保護者も学校も同一歩調で、子どもの命・健康を守るための声かけをしていきましょう！

矢野目小学校 熱中症予防対策基本方針について R6

1 基本的な考え方

◎ 本校では、暑さ指数(WBGT)を判断の基準として活用します

本校では、単に気温だけでなく、湿度や日差しの違いをも考慮した「暑さ指数(WBGT)」を熱中症予防の際の対応・判断の基準とします。日々の情報発信の中でも、最高気温だけでなく、暑さ指数を活用することで、より適確な熱中症予防情報を児童ならびに教職員に提供するとともに指針に沿った対応を行うことで熱中症の発症を予防し、万が一の発症の際の被害を最小限に抑えます。

○ 生活の場における暑さ指数(参考値)について

気象庁は、観測データの品質を向上させるため、露場と呼ばれる芝生上で、太陽などの放射熱を遮り、秒速 5m 程度の強制通風条件のもとで「気温・湿度」を観測しています。それに対して、生活の場においては日射や建物からの輻射、地面からの反射などがあり、より厳しい暑熱環境となっています。

そこで、環境省では、アスファルトの駐車場、交差点、バス停、住宅地、グラウンドなどにおいて、独自に観測、研究を行い、この観測結果に基づき算出した「生活の場における暑さ指数」(参考値)を、平成 25 年度より提供しています。また、より地面に近い「子供の高さ」の暑熱環境を観測するため、50cm の高さでも観測を行い、通常観測の 1.5m の高さの観測値と比較しました。福島市においては東京よりも温度・湿度等が高いことが多いため、より過酷な環境と言えるかもしれません。

○ 利用上の注意を踏まえた活用

「生活の場における暑さ指数」は、「暑さ指数」の実況値、予測値に、独自の観測で得られた差を加えて補正した数値ですが、これらはあくまで生活の場の暑熱環境の目安に過ぎません。それぞれの生活の場では、同じような環境であっても周囲の建物の配置や日射や風の状況により、さらに厳しい条件となることも予想されます。実際の生活の場では、可能な限り暑さ指数(WBGT)を測定し、熱中症に備える、また暑さ指数(WBGT)を測定できない場合でも、気温などを測定し、暑さに対し常に注意を払う必要があると本校では捉え、暑さ指数計による活動場所での計測値をもとに児童ならびに教職員の健康管理に当たっていきます。

[体育館] 本校体育は空調設備がなく、同様の施設での検証結果から、午後 1 時頃から体育館内の方が屋外よりも暑さ指数が高くなり、午後 5~6 時頃にその差が最大となる傾向があります。また、日没後も午後 10 時頃まで体育館内の暑さ指数が高くなる傾向があります。換気を行っても体育館内では通常は風がなく、建物が鉄骨や金属屋根などで造られていて熱をためやすい構造にあります。体育館の利用にあたっては、夕方・夜間であっても、十分な換気の実施、扇風機の稼働を行い、体育館内を冷やすことが重要と考え、猛暑の期間中は体育館に扇風機を常設し、活動時を中心に稼働した状態での活動とします。

<黒球温度計について> 本校でも使用している黒球温度計は、屋外の場合には直射日光にさらされた状態での球の中の平衡気温を観測しており、弱風時の陽向における体感温度と良い相関があります。周囲環境からの輻射熱の影響も測定しているため、気温よりも黒球温度の方が高くなるのが普通ですが、より体感温度に近い計測環境の暑さ指数を計測し、熱中症予防に役立てていきます。

2 学校生活における指針ならびに対応について

本校では、以下の指針(熱中症予防対策サイト掲載)に沿って、児童ならびに教職員の生命の安全を優先し、屋外活動や体育館等での屋内活動の実施の可否を決定していきます。

空調設備のある適切な環境下(涼しい室内)での屋内活動については、指導者による健康観察の徹底と水分・塩分の補給、登下校時の安全等を確保した上で、いずれの基準に該当する場合でも実施可能とします。

○ 日常生活に関する指針

温度基準 (WBGT)	注意すべき生活活動	注意事項・基本的対応
危険 (31以上)	すべての生活活動で起こる危険性	屋外活動は避け、涼しい室内で活動する ※ 高齢者等は安静状態でも発生する危険性が大きい
嚴重警戒 (28以上～31未満)		活動は炎天下を避け、室内活動時は室温の上昇に注意する
警戒 (25以上～28未満)	中等度以上の生活活動で起こる危険性	体を動かす場合は、定期的かつ十分な休息・給水を取り入れる
注意 (25未満)	強い生活活動で起こる危険性	激しい運動時には発生する危険性があることを考慮する ※ 一般に危険性は少ない

○ 運動に関する指針

気温 (参考)	暑さ指数 (WBGT)	熱中症予防運動指針・本校での対応	
35℃以上	31以上	運動は原則中止	原則、運動を中止する 特別対応※1 を除く
31～ 35℃未満	28以上～ 31未満	嚴重警戒 (激しい運動は中止)	熱中症の危険性が高いので、激しい運動や持久走など体温が上昇しやすい運動は避ける 10～20分おきに休憩を取り水分・塩分の補給を行う 熱さに弱い人は運動を軽減または中止
28～ 31℃未満	25以上～ 28未満	警戒 (積極的に休憩)	熱中症の危険が増すので、積極的に休憩を取り適宜水分・塩分を補給する 激しい運動では30分おきくらいに休憩を取る
24℃～ 28℃未満	25未満	注意	熱中症による死亡事故が発生する可能性がある 熱中症の兆候に注意するとともに、運動の合間に積極的に水分・塩分を補給する
24℃未満	21未満	ほぼ安全 (適宜水分補給)	通常は熱中症の危険は小さいが、適宜水分・塩分の補給は必要である

※ 特別対応について

- ① 大会の2週間前の期間に限る
- ② 短時間での活動とし、指導者が常時生徒の健康観察を徹底でき、休憩や水分・塩分補給等について随時適切に指示できる体制をとる
- ③ 熱中症の兆候が見られた際には、すぐに活動を取り止め、組織的な緊急対応ができる

○ 熱中症の症状に応じた処置と保護者・医療機関等との連携

重症度	分類	症状	処置	連携
	I度 (軽症)	めまい 立ちくらみ 足がつる 手足がしびれる 汗が止まらない	現場で応急処置。 ・涼しい場所で安静 ・身体を冷やす ・水分・塩分補給	<連携> 児童の症状を見ながら連絡を取り、早退も検討 速やかに医療機関と連携し対応するとともに保護者に連絡 大至急、救急搬送を要請し、保護者には搬送先(間に合えば来校)を連絡
	II度 (中等症)	頭痛 吐き気・おう吐 身体がだるい 意識がなんとなくおかしい	速やかに医療機関を受診 アクトイブ・ケリング	
	III度 (重症)	意識が無い けいれん まっすぐに歩けない 体が熱い	ただちに119番通報入院 アクトイブ・ケリング	